

## みんなの寄付 2021 年秋期募集 活動完了報告

### 《概要》

申請内容：『五島記念文化賞新人賞研修成果発表オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」』

### 《報告および成果》

2021年9月19日（日）、前日の台風の影響もなく、予定通り12：30からプレトークを開始することができました。当日およそ170名のお客様にご来場いただきました。

プレトークでは、グレーテル役・今野沙知恵さんに二幕冒頭「Ein Männlein steht im Walde」を歌っていただき、そのあと登場人物や作品の背景などの解説をいたしました。後半はコレペティションとドイツ韻律論の解説を交えながら、テキストと音楽の関連性について、第三幕「魔女のシーン」を引用、魔女役・伊藤達人さんとコレペティ稽古の再現をいたしました。

前半 序曲から一幕に続き、間奏曲をはさみ二幕へ転換。全体を通して、テンポの移り変わり、拍節の変化、早口言葉、などそれぞれ見事にクリア。合唱の「こだま」&カッコウ（オカリナ）も成功。GP ではうまくいかなかった子供たちのバレエもきれいにおさまりました。

後半 朝露の精・遠藤紗千さんの登場から、グレーテル・今野沙知恵さんのアリアに続き、ヘンゼル・杉山由紀さんとグレーテルの二重唱、お菓子の家・魔女（伊藤さん）の登場。コミカルな演技とテンポの移り変わりの激しい音楽も見事にクリア。フィナーレではバックステージからの合唱もバランスよく、全員で「Wenn die Not aufs höchste steigt…」を唱和し、閉幕。

全幕を通して二人のピアニスト（水野彰子さん、濱野基行さん）の演奏は大変素晴らしく、短い期間の稽古を非常に効率的に進めることができたのも、このお二人の協力のおかげでした。八月前半から各ソリストの皆様とコレペ稽古を開始し、「最低限の回数」で音楽&立ち稽古を組んだ、とても短い期間での制作でしたが、出演者・演出家・スタッフが一丸となった協力体制の下、充実した一か月を送ることができました。

## 《今後の課題について》

私個人といたしましては、コレペティトールの視点を持ちながら、指揮者として指揮台に立ち、この作品に体当たりできたことが何よりも良い経験になりました。演奏者として外国語のテキストと向き合うということは、一語一句意味を調べ、多くの場合辞書には載っていない表現を、翻訳本や資料を通じて学び、それを再び「全体の流れ」の中で理解し、自然と自分の口から出るまで繰り返す、という作業を伴います。私は声楽家ではありませんが、指揮者として声楽家の皆様と「共通した視点」で作品を一緒に作り上げる、という自分のフィールドを今後も継続して持ち続けたいと思っております。そのためにもブラッシュアップとレパートリーの拡大を心がけたいと思います。

## 《その他》

作品の解説（プレトーク）、制作過程のプレゼンテーション（コレペティ稽古の再現）、字幕の位置（背景スクリーンと一体型）、演奏家と指揮者の舞台配置の工夫（上手側に指揮者・ピアニスト、下手側にソリスト）など、今回のプロダクションを通して、「上演形式の新たな可能性」を発見できたことも一つの大きな収穫だったと思います。

